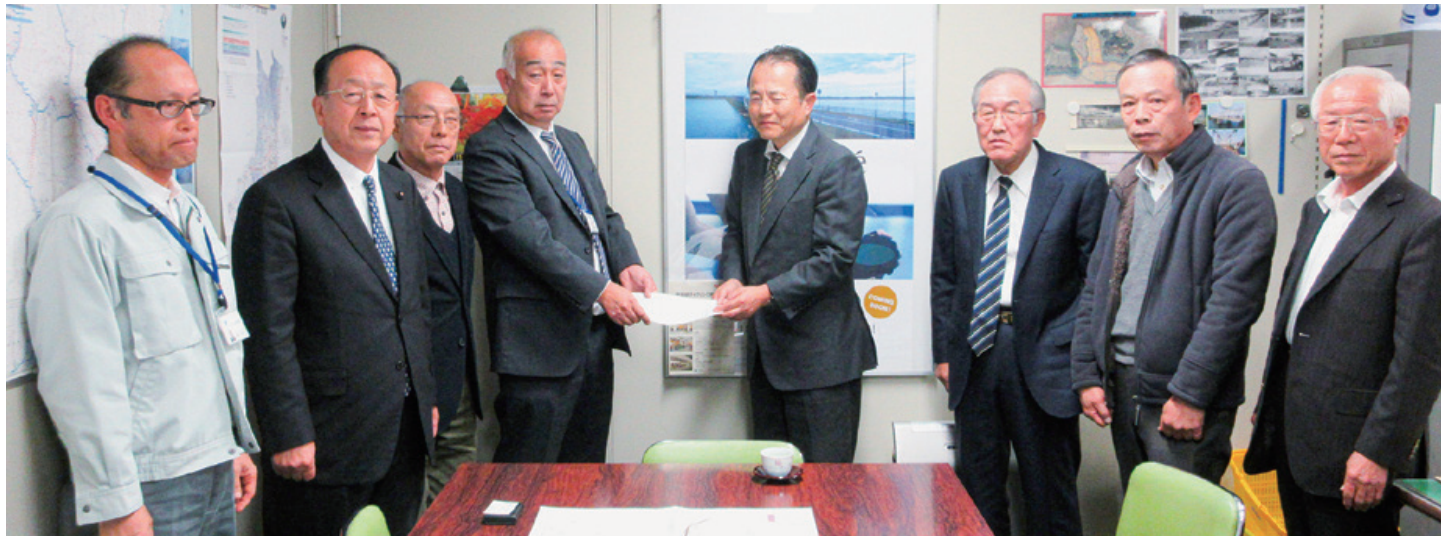


笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲笠間市内スタート笠間ゴルフ倶楽部前を通る県道真端(さなばた)水戸線は生活道路として重要な道路ですが、とても幅員が狭く危険な道路となっています。地元大橋区の区長さん方と水戸土木事務所の鯉淵宏一所長に改良要望をしました。皆さんと手を携えて、私も頑張ります。(令和元年11月27日)

燃える郷土愛。全力投球!!

新しい年を迎えられ、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

お蔭様で、私は皆様のご支援により、郷土笠間市・茨城県の発展のため精一杯議会活動に励んでおります。

昨年は、道祖神峠トンネルの実現に向けて、いばらき自民党の関係県議9名で構成される「茨城縦貫幹線道路道祖神峠トンネル整備促進期成同盟」を設立し、私は、会長として、県の関係部長に道祖神峠トンネル化の早期実現を求める要望活動をしてきました。生活道路としてはもとより、笠間市の観光や産業などに抜本的な変革をもたらす重要な道路整備であり、「トンネルの実現なくして笠間市の発展なし」との強い信念のもと、一日でも早く実現できるよう、これからも全力で取り組んでまいります。

本年も私は、皆様の声を県政に反映すべく元気ががんばってまいります。引き続き、ご支援のほどお願いいたします。

茨城県議会議員

常井洋治



県立中央病院トピックス

○ハンガリー国立医科大学実習提携病院の認定

令和元年9月に、県立中央病院がハンガリー国立医科大学の実習提携病院としてハンガリー認定委員会から正式に認定された。

これにより、令和2年夏からハンガリーの4つの国立医

科大学から医学実習生(主に日本人)の受け入れが可能となるため、学生の受け入れと将来的な定着を進めていく。

○施設の改修工事

患者にやさしい病院を目指し、施設の改修工事を実施。

- ・身障者等用駐車場への屋根設置工事(令和2年1月から供用開始)
- ・院内レストランのリニューアル工事(令和2年2月5日オープン)

常井洋治県政報告会のお知らせ

どうぞ、お気軽にお越しください。

日時：令和2年4月4日(土) 14:00~15:45

場所：笠間公民館

その他：ジャーナリスト ふたつき ひろたか 二木 啓孝氏の講演もあります

〈テレビ「インサイドOUT」(BS11)、

ラジオ「くにもるジャパン」(文化放送) など出演

一緒に創ろう! ふるさと

令和元年県議会11月臨時会(令和元年11月19日)
第4回定例会(令和元年12月4日~20日、17日間)を終えて

笠間市・茨城県の輝く新時代

令和元年11月臨時会は、11月19日に開かれ、予算、報告、意見書の3件の議案が可決、承認されました。令和元年第4回定例会は、12月4日から12月20日まで17日間の会期で開かれ、条例など37件の議案が可決、同意、認定、採択されました。

令和元年度11月県一般会計補正予算を可決(臨時会)

- ◎補正予算 **354億59百万円**
- ◎補正後予算 **1兆1,912億55百万円**

補正予算の基本的な考え方

台風第15号・第19号による甚大な被害に対してスピード感をもって対応。

- 生活再建に向けた支援
避難所の設置などの救助に係る経費や県独自の住宅復旧

支援など

- 農業者や中小企業者等への支援
農業用機械・施設や中小企業の施設・設備の整備等に対する支援、災害対策融資枠等の拡充、観光需要回復のための支援など
- 災害復旧事業等
河川や農地、県立学校等の復旧工事等
- ※ 今回の補正予算の財源は、災害復旧のための国庫支出金や県債等を充当し、所要の一般財源については、繰越金及び一般財源基金を活用。

第4回定例会で制定された議員提案条例

私常井洋治は、これらの条例制定に積極的に取り組んできました。

○茨城県いじめの根絶を目指す条例

近年、いじめに起因する児童生徒の不登校や引きこもりなどが生じ、さらには自ら命を絶つ痛ましい事件が発生するなど、いじめが深刻かつ重大な社会問題となっております。私は、「いじめをしない、させない、許さない。」という認識を県民が共有して取り組むことの重要性を強調し、幼児期の取組や大人社会のいじめの根絶についても条項に盛り込みました。

○茨城県主要農作物等種子条例

本県は、主要農作物種子法に基づき、稲などの種子生産に取り組んできましたが、同法は、多様な需要に応じた種子の供給が行われる環境の整備などを理由に、平成30年に廃止されました。私は、農業県である本県が、農作物の生産を続けるためには、種子(稲、麦、大豆)の安定的な

生産の重要性を強調し、これまで本県が行ってきた種子の生産に必要な事項を条項に盛り込みました。

※ いずれも令和2年4月1日から施行されます。



いばらき自民党政調会で、条例について意見を述べる。実効性ももった条例にしたい一心で出席を続けていた。(R17・23)

総務企画委員会の質疑要約 (R1.12.13)

- 茨城放送のネット動画チャンネル立ち上げの際は、県が積極的に関与し、家庭のテレビでも視聴できるように検討すべきだ。
- 県庁本庁舎のエレベーターは、二重ブレーキ設置がゼロ。命の問題であり、早急に対処すべきだ。
- 25年後には人口5千人を割る自治体も予想される。再度、県のリーダーシップで合併を推進すべきだ。
- 道祖神峠トンネルを含めた茨城縦貫幹線道路の早期整備を進めるべきだ。
- 茨城空港を楽しんでもらう仕掛けや、そのための財源確保について検討すべきだ。

【総務部】

常井委員 茨城放送の県保有株式の売却理由と売却の割合を6割とした理由は。

川股報道・広聴課長 平成22年6月に定めた「県出資法人の将来方向についての基本方針」の中で、経営改善の状況を見極めながら県の関与を段階的に縮小することとしてきたが、平成23年以降8期連続で黒字を達成できたこともあり、協議を重ねた結果、今回の筆頭株主の変更にあわせて譲渡するに至った。6割とした理由は、今後県として関与していくという方向性のもと茨城ロボッツと調整し、合意に至った結果である。なお、議決権比率は2位から3位に低下したが、県の関与は、これまでどおりで影響はない。

常井委員 堀オーナーの発表の中で、「テレビ局」或いは「それに準ずるネット動画チャンネル」の立ち上げとい

う話があった。この機を千載一遇のチャンスと捉えて、県には大きな関与、関心を持ってやってもらいたい。当面は、ネット動画チャンネルでの配信ということだが、一番視聴し易い家庭のテレビでも視聴できるよう、是非とも検討を進めてもらいたいと考えるがどうか。

川股報道・広聴課長 堀氏は、ネット動画配信等について広い人脈があるという話も聞いており、県としても積極的な働き掛けをしていきたい。

常井委員 エレベーターの二重ブレーキは、法改正により、平成21年9月以降に着工されたものは設置が義務付けられている。茨城新聞によると、県庁本庁舎の二重ブレーキは設置ゼロとなっているが、県有施設全体における二重ブレーキの設置状況と設置が進まない理由は。

菅谷管財課長 県有施設全体では、126施設にエレベーター385台が設置されており、二重ブレーキの設置率は、中央病院など31施設60台で約16%となっている。二重ブレーキの設置が進まない理由は、財政問題が大きい。新築時に本庁舎18台、議会棟5台のエレベーターで約18.5億円かかっているが、後付けとなると、工事の内容や期間がより困難なものとなり、費用もかさんでくる。エレベーターは25年から30年が更新時期と言われており、財政的な面も踏まえて、更新時期にあわせた対応を検討していることが設置の進まない原因と考えている。

常井委員 大勢の来訪者がいる中で、二重ブレーキの未設置は余りにも危険である。命を守るためにも、25年という更新時期を待つ前に、前倒しして進められるよう、スケジュールを立てて対処すべきでは。

菅谷管財課長 本庁舎は、24時間常時監視、ブレーキが甘くなった場合に備えた熱センサーなど、安全確保には万全を期している。エレベーターは特注品であり、複数年要することから、来年度以降直ちに検討を開始していきたい。

常井委員 県がやれば、民間や市町村も倣っていく。命に係わる問題ということを強く意識し、早急に対処すべきだと考えるが、部長の見解は。

村上総務部長 県庁舎は竣工から既に21年となり、更新計画に基づき平準化を図りながら様々な改修工事を行っている。エレベーターは複数年を要する大規模な改修であり、メーカー等ともしっかりと事前調整を行う必要がある。具体的な更新時期、手法等の検討は来年度から着手していきたい。

常井委員 25年後の推計人口によると、1万人を切る町村が6つあり、特に河内町や五霞町は5千人前後となる。このようなことは、災害対応など、住民の命に関わる問題になってくると思うが、県はこの問題について不都合はないと考えているのか。

清水市町村課長 今後の人口減少を考慮すると、小規模な市町村が行政サービスをどのように提供していくのか難しい判断を迫られる状況になってくる。市町村連携や県からの職員派遣など、県としても助けていく必要があると考

えている。

常井委員 広域連携や県による補完には、おんぶに抱っこのような形で自治体運営がなされているのかという懸念がある。今回の合併特例法の延長では、自主合併の答申に基づいた法案となる見込みであるが、交付税制度が今後も維持できるかと考えると疑問だ。新法の範囲を超えて、県が強力で働き掛けて、もう一段階合併を推進していくべきだと思うが、部長の見解は。

村上総務部長 人口減少の中でも、持続可能な行政サービスの提供体制を確保していく必要はあるが、国からは、合併ということだけではなく、圏域行政や水平連携など色々な選択肢が示されていることから、そこには注視していきたい。ただ、市町村自らの判断で合併を進めようという場合には、県としても必要な支援を行っていきたい。

常井委員 市町村の判断に任せては合併できないから質問している。再度答弁をお願いしたい。

村上総務部長 国の制度では、都道府県の積極的な関与は平成21年までであり、その後は、自主的な合併を円滑にしていくという方針が変わっている。将来を見据えた際に、合併も1つの手段であるため、県としても、国の動向等を注視しながら市町村のお役に立てるよう引き続き頑張っていきたい。

【政策企画部】

常井委員 県北地域の道路構想として(仮称)茨城縦貫幹線道路が示されているが、118号のバックアップ能力を持った縦軸の道路は絶対に必要である。我々も道祖神峠トンネルの実現に向け努力しているところであるが、県北振興上も非常に重要な道路

となるため、県北振興局には先頭に立って取り組んでもらいたいと考えるが、どう取り組んでいるのか。

安達県北振興局次長 関係市町と意見交換をしながら道路構想の周知や進め方などを共有していきたい。

常井委員 茨城空港について、いばらき自民党の空港議連などでビジネス(プライベート)ジェットの受け入れを提案してきた。受け入れる際に、駐機場が不足するという話も聞くが、現在の状況は。

渡邊空港対策課長 この12月から国土交通省において、オリパラ期間中の乗り入れ希望の受付が開始されたところ。定期便の支障のない範囲で受け入れすることになるが、多くの乗り入れ希望があった場合は、国土交通省が窓口となり調整することから、対応方法は国と協議して進めていきたい。

常井委員 退役したF4ファントムを譲り受ける方法を模索して、これまで議連で提案してきたエアパーク(航空博物館)の開設を念頭に、目玉として敷地内の展示を考えてもらいたいどうか。

渡邊空港対策課長 ファントムは百里基地のシンボルとなるような飛行機であり、たくさんの集客力を見込める魅力ある素材だと思っている。関係機関としっかりと協議していきたい。

常井委員 中部国際空港セントレアには、テーマパーク



▲総務企画委員として最後の委員会で多岐にわたる質疑をした。一問一答で約40分真剣なやり取りが行われた。(R1.12.13)

があり、新千歳空港には温泉等がある。茨城空港も、航空機利用者以外の収入が得られるよう、一大観光拠点となるような仕掛けが必要だと思うがどうか。

渡邊空港対策課長 これだけ便数が増えてきた中で、ゲートウェイ機能や空港本来の機能をどういう形で絵を描いていくのか、今我々に課されている課題であり、着実にこなせるよう取り組んでいきたい。

常井委員 空港経営にもやり方は色々ある。今後は、駐車場やターミナルの拡張、エアパーク整備の原資とするためにも、航空機利用者以外の一般来場者の駐車料金を有料

化していくことも必要になってくると思う。空港を楽しんでもらう仕掛けとともに、色々なお金の生み出し方を考え、その方向性を検討していく時期に来ているのではないかなと思うがどうか。

玉川政策企画部長 これだけ便数が増え、駐車場や建物が手狭になってきており、何とかしなければという認識を持って取り組み始めているところ。ご意見も参考に今後の在り方の検討を進めていきたい。

※常井洋治は、その他オーシャンビュー大洗売却の不正の問題点、水郡線の早期開通について質問しました。



▲笠間市新年賀詞交歓会で、「道祖神峠トンネルが開通したことを想像してみてください」と皆さんに問いかけた。(R2.1月)



▲笠間市消防出初式で、消防職員、消防団員総勢約700人の皆さんに日頃の活動のお礼を述べた。(R2.1月)



▲かさま陶芸の里ハーフマラソン大会には、東京オリパラホストタウンとして迎えるエチオピアの陸上選手の方にも参加した。(R1.12月)

県立中央病院に

安定していると言われてはいるけど
一人で家にいるのは1日が長い、何となく心細い…
少し外に出てみようかな… 誰かと話せると良いな…

がんデイケアサロンが開設

— 治療後、在宅療養中のがん患者と
家族の居場所としてお気軽においで下さい —



仕事復帰に向けた体力づくりに
軽いストレッチくらい
ならでできるかも…

- 緩和ケア認定看護師等による心のケア
- 患者同士の交流
- 趣味活動(ストレッチ・呼吸法、折り紙など)

ご家族の方も
ちょっとひと息入れて下さい

家から出て
ひとりではちょっと
過ごしたい

- 毎週水曜日 9:30～15:30
- がんセンター棟5階(緩和ケア病棟)



茨城県立中央病院
0296-77-1121(代表)

※ 参加費無料、申込み不要です。
他病院で治療した方も利用できます。
必要な方は、飲み物・食事をご準備ください



▼
デイケアサロンの開設に尽力された角田看護局長と現場を訪れたベテランのがん認定看護師が豊富で、患者の相談を気軽にできる方です。ゆったりとした空間になっています。



がんで治療後自宅で療養している方は、どうしても家にこもりがちになります。このようなデイケアへの外出機会と居場所を作るとは生活の質を向上し、早期に社会や職場復帰を図るうえで、とても重要です。ご家族の方もひと息入れることができます。

このサロン開設で、私がいばらき自民党政調会長当時に議員提案で制定した「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」に盛り込んだものを実現できました。

多くの皆さんに知ってもらい、活用して頂きたいと思えます。